

総合特別区域の進捗に係る評価
[観光等分野]

令和元年度

九州アジア観光アイランド総合特区

[指定：平成25年2月、認定：平成25年6月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値 $(4+4)/2=4$

4.0

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	アジアを中心とした九州への入国外国人数	126%	5
2	九州における訪日外国人の年間観光消費額	79%	3
3	特区ガイドの稼働者数	89%	4

評価指標毎の進捗の評価の平均値 $(5 \times 1 + 4 \times 1 + 3 \times 1 + 2 \times 0 + 1 \times 0) / 3 = 4$

4.0

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。
(例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

4.0

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値 $(4 + 4.3) / 3 = 4.2$

4.2

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

4.0

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

-

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

4.3

Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.8

- ・特区通訳案内士の育成について、相応の実績を上げており、また、目標を達成するための過程の工夫や努力がうかがえ、高く評価できる。無資格ガイドについては、是非解決策を見出してほしい。
- ・評価指標(1)「九州への入国外国人数」については、数だけでなく質を追う戦略が必要。
- ・訪日外国人の年間観光消費額は未達だが、柔軟な対応とその努力は素晴らしい。課題はガイドの稼働率のさらなる向上であり、観光消費の増大促進策と連動させて、ガイドの登用・活躍を進めていくことが効果的。
- ・各県の特徴を生かして九州全体に回遊させるブランディングととがったコンテンツ開発が必要なほか、旅行者の国籍による消費性向の違いを踏まえたきめ細やかな取組を期待。
- ・指標数値はコロナ禍や国際関係により大きく変化することも多いので、あまりとらわれる必要はないが、「九州への入国外国人数」や「訪日外国人の年間観光消費額」は、本取組の進捗に関する評価指標としては説明なく使われると違和感がある。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.8

総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算 $(4+4.2+3.8 \times 2) \div 4=4$

4.0

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。